

会議録

- 1 会議の名称 第3回熊取町公共交通会議
- 2 開催日時 令和3年10月8日（金） 13時30分から15時00分まで
- 3 開催場所 熊取町役場北館3階 大会議室
- 4 議題 議事（1） 熊取町公共交通に関するアンケート調査結果について
議事（2） AI オンデマンド交通実証実験について
- 5 公開・非公開の別 全部公開
- 6 傍聴者数 0名
- 7 審議等の概要

議事（1） 熊取町公共交通に関するアンケート調査結果について

- ・アンケート調査結果の概略について、事務局から説明を行った後、委員の皆様にご質問、ご意見をいただきました。

議事（2） AI オンデマンド交通実証実験について

- ・AI オンデマンド交通実証実験の概要について、事務局から説明を行った後、委員の皆様にご質問、ご意見をいただきました。

【委員からの質問・意見】

○熊取町公共交通に関するアンケート調査結果について

- ・区、自治会の方からの回収がほとんどであるが、公共交通利用者の声が反映されていないのではないか。
→各区、自治会の回答者の中には公共交通を利用している方がおり、利用者としての意見も確認できるため、公共交通利用者の声は一定反映できていると考える。
- ・偏った回答になっていないことは理解できたので、この結果をもとにいろいろと検討していきたい。
- ・公共交通を利用していない方に乘っていただく方法をどう考えるかというのが一つの議案である。
- ・ほとんどの方が自家用車を活用されており、「今は困っていない」という回答が多いが、では5年後どうするのかという話も同時に進めていかないと、いざという時に

慌てることになる。

- ・非常に参考になる結果であるため、交通事業者としてできる事は取り組んでいきたい。
- ・タクシーでは乗り降りしやすいように、スライドドアの車両台数を増やすなどしている。
- ・なかなかきちっとした結果であり、町の交通政策を実施・検討していく中で、有用な内容が含まれていると思うので、公共交通会議においても、是非活用していきたい。

○AI オンデマンド交通実証実験について

- ・当初はラストワンマイル問題の解消ということで、交通空白地からバス停までの間を想定していたと思うが、目的地として駅に乗り入れる案に至った経緯を教えてください。
→ラストワンマイル問題も考えながら、ゼロベースから熊取町の公共交通を考えていく中で新たな交通手段の実証実験であるため、代表的な目的地を設定したものである。
- ・実証実験を否定するものではないが、路線バスと目的地が重複しており、同じ目的を持った交通手段が複数存在すると、実験とはいえ交通事業者にとっては正直厳しい。
→実証実験中に交通事業者に影響が出る可能性は承知の上で、町内の公共交通をデザインし直すにあたり、その影響も貴重なデータになりうると考えている。実験ということでご理解をお願いしたい。
- ・実験実施に対して理解はするが、路線や目的の重複は交通事業者の減収の要因になりうることは認識してもらいたい。
- ・自由が丘はフリー乗降区間があり、便数も1時間に2便と、交通網は一定カバーされていると考えるが、なぜバスが通っていない地域（高田、成合、和田など）を選定しなかったのか。
→地域選定については、70歳以上の人口割合が25%以上、アンケート調査でデマンド交通利用意向が30%以上、バス停から200m圏外また勾配のある地域で機械的に選定したものであり、自由が丘については北側のエリアがバス停から遠く、条件を満たしたため選定したものである。
- ・イメージでどこどこにバスが通っていないから実験してほしいというより、こういう科学的な形で選定するのが一番効果があがると思う。
- ・路線バスの転回地を目的地に設定しているが、利用がないのではないかと。
→バスで南海の泉佐野駅に行きたいという利用者を想定して設定している。
- ・地域内の乗降場所について具体的に教えてください。
→自治会ごとに、警察や地域住民と調整の上、自治会のエリアをカバーできる場所を3か所程度設定していきたいと考えている。
- ・実証実験の結果、どのような結果であればこのオンデマンド交通を全域に広げていくのか。
→結果次第のため、答えられる段階にはないが、アンケートの中では「これ以上の公費投入を望まない」という意見もあり、ひまわりバスとの入れ替えや効率的な縮小などの可能性もふまえて、まずは利便性の高い公共交通手段になりうるかどうか検証していきたい。
→既存公共交通もある中、単純にこうだからこうということにはなりえない、今年度はまずニーズや課題を一通り揃えた上で、実証実験の結果も踏まえた後、じっくり検討すべきと考えている。

- ・検証の仕方は利用率やアンケートを考えているか？
→MONET Technologies(株)と協議中であるが、利用者アンケート等を考えている。
- ・経済力的に競合する公共交通の調整は難しいと思うが、全体の交通でお互いにとってよくなれば一番良いので、公共交通会議で出来る範囲で検討していきたい。
- ・実験実施については公共交通会議で了解済かと思うが、この会議ではどこまで決めるのか？
→任意の会議体である公共交通会議で決定して実証実験実施ということではなく、会議には実証実験の内容の報告・説明とさせてもらい、詳細は別途関係者、関係機関と協議の上、町が決定し、次回会議ではその決定事項について報告をしたいと考えている。
- ・運送法 21 条許可の許認可を下ろすのに 2 か月必要であるので、それまでに事業者から調整済みのものを申請書として提出してもらいたい。
- ・運行は各地域から駅方面への片道通行のみか、またシミュレーションでは 1 台で片道最大 40 分くらいとのことだが、1 時間あたり片道 1 本くらいの運行が目安となるか？
→予約制で、往復運行を考えており、シミュレーションについては最大のルートを想定したもののため、実際はもう少し早いペースを想定している、また完全フリーの予約制か定時定路線かなど、MONET Technologies(株)と調整中である。
- ・タクシー運転手の労働時間やバス転回地での停車の可否なども関係機関と調整をお願いしたい。
- ・警察等の指導を受け、安全に事故などないように実験を実施してもらいたい。
- ・乗降場所設置の際は、駐停車禁止の場所（バス停など）を避けてもらい、道路上であれば占用、道路使用許可での対応で場所を決めてもらいたい。その辺は一緒に現場立会をさせていただく。
- ・交通事業者としては実験が減収につながる可能性があり、交通空白不便地の方や公共交通を利用していない方に乗ってもらえるよう、広報、PR をかけてもらいたいというのが正直なところである。
- ・既存公共交通を知らない方も多いため、町が実証実験の広報、PR に公共交通の周知も兼ねてしてもらえると、利用が広がる余地があると考えている。
- ・少ない利用者の取り合いではなく、いろんな交通手段を活用して利用者を増やし、町民の移動利便性の向上を検討出来るのが公共交通会議である。

○アンケート結果も AI オンデマンド交通実証実験も、熊取町の今後の公共交通を検討する上で、とても有意義な事業なので、今後も公共交通会議で引き続き議論していきたい。

8 審議会の情報	名称	熊取町公共交通会議
	根拠法令等	熊取町公共交通会議設置要綱
	設置期間	令和 3 年 5 月 1 4 日～
	所掌事項	熊取町公共交通に関すること
	委員数	9 名

9 担当課 道路課